

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【土合小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策	
重点的に育成する 資質・能力	(1)言語や数理の構造を正確に捉え、学習の基盤として正しく活用する資質・能力 (2)情報を多角的に捉え、目的や根拠を明確にして表現する資質・能力	
↓		
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)「振り返り」と「既習事項」の関連付けを行う時間の設定と、書き込み式ドリルやドリルパーク (ICT)、習熟度別プリント等を活用した「反復・習熟」の時間の実施。【各単元の中で1回以上】 (2)自分の考えを表現する際に、「答え」だけでなく「理由(根拠)」をセットにした話す・書くの習慣化 と、共同編集等を活用した協働的な学びの実施。【各単元の中で1回以上】	

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 結果提供(2月)
↓		
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	・国語の「条件に合わせて文章を構成する記述問題」や算数の「データの活用領域」に課題が見られ た。無回答率も高く、根拠やデータを基に自分の考えを筋道立てて構成・記述ができていない児童が 多かった。 ・児童質問紙では「話し合いでの考えの深まり」やICT活用に対する肯定的な回答が非常に高かった。	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	・文章や複数の資料・数理構造(単位分数や表の条件)を正確に捉え、自分の体験や理由 と結びつけて記述・説明することに引き続き課題がみられる。 ・対話的な学びやICTの活用を通じた情報整理・表現には主体的に取り組むことができ ている。	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果		
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業	

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	学力向上策(1)・(2)ともに実施することができている。(2)については、単に根拠 を書かせるだけでなく、思考ツール(ワークシートや共同編集シート)等を活用して 「理由や体験を箇条書きで整理してから文章化する」プロセスを取り入れるなど、全 ての児童が根拠のある記述を最後まで書ききれるよう指導・支援を工夫改善する。
	B	
↓		
学力向上策の 見直し	(変更なし)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所